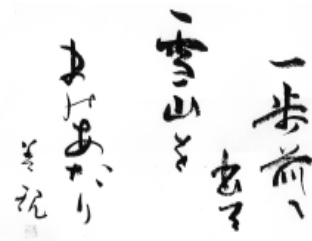




一 歩 前 へ



糸魚川市立下早川小学校 標高 92m 児童数 76 平成29年8月25日発行 第 987 号

URL <http://www.tukimizu.itoigawa.ed.jp/> または下早川小学校で検索

糸魚川市小学生親善水泳大会に37名の選手出場



7月25日(火)「サンドリームおうみ」を会場に水泳大会が行われました。6年生15名、5年生14名、4年生からは8名が選手として参加しました。室内プールは蒸し暑く、水温も30度と生ぬるく厳しいコンディションでしたが、選手らが力を発揮しました。「男子50mバタフライ」「男子100m個人メドレー」で大会新記録が出るなど、成果の上がった大会となりました。下早川小学校の児童もよく健闘し、以下の児童が入賞しました。今回は6年生の活躍が目立ちましたが、来年は5年生・4年生が選手として活躍してくれることを期待しています。



男子100m自由形	第2位	松田優光	1分33秒4
男子50mバタフライ	第5位	磯貝悠太	49秒4
女子100m平泳ぎ	第5位	加藤小夏	2分4秒2
女子100m自由形	第6位	山本ふぶき	1分55秒3
女子50m背泳ぎ	第8位	渡辺さやか	54秒4

緑の少年団3校交流会事業 焼山周辺で火山とブナについて学習

糸魚川市には「緑の少年団」組織をもつ学校が3校あります。木浦小、青海小、下早川小です。今年は下早川小が当番校として3校交流会を計画しました。8月3日(木)木浦小3年~6年16名、青海小5年22名、下早川小3、4年28名、計66名が参加し、3校交流事業を行いました。火山学習の講師としてフォッサマグナミュージアム学芸員竹之内耕さんをお迎えしました。糸魚川市の木である「ブナ」については、地域振興局林業振興課の岡村利栄さんから教えていただきました。3000年前上早川一帯はブナの森林だったそうです。焼山の誕生によりブナの森林は火山灰に埋もれたという説明のあと、前山溶岩流、火打山川第一砂防堰堤を見学しました。午後は「焼山の里ふれあいセンター」にて、各校児童混合班でブナのコースターづくりやブローチづくりを楽しみました。感想発表では「友達ができた」「焼山に興味をもった」「工作が楽しかった」などの感想が聞かれました。



8月28日（月）から2学期開始

この時期心配なことがあります。全国的に見ると自殺・不登校・家出をする児童・生徒が最も出やすくなる時期です。大人の目から見れば「何を甘ったれたことを」と思うでしょうが、特に思春期の子どもは時



夏休みを
楽しみましたか？

として予想もつかない行動に出ます。原因は、「宿題が終わっていない」「学校に会いたくない友達がいる」「夜型の生活やゲーム漬けの生活を変えられない」など様々です。自殺や登校しぶりを防ぐには、2学期開始数日前から2学期に向けての心の準備を進め、登校することが楽しみな状況を作ること、2学期に何をがんばろうか目当てをもつことなどが考えられます。お子さんが無気力で心配な状況が見られましたら、すぐに学校にご連絡ください。その子の心に寄り添い、この時期を何とか乗り切れるように共に力を合わせていきましょう。そのような経験も子どもにとって決して無駄なことではないのですから。

日野原重明さん「十歳のきみへー九十五歳のわたしからー」の著作から

この夏、聖路加国際病院名誉院長だった日野原重明さんが105歳で天寿を全うされました。小学校を訪問して行く「命の授業」や『生き方上手』などの著作で著名な方です。高齢になっても衰えないエネルギーの源は何か、子どもたちに何を伝えようとしたのかが気になり、上記の一冊を読みました。

日本人の平均寿命はどんどん延びています。そのことについて日野原さんは次のように述べています。

「寿命が長いのはさいわいなこと。でも、いったい何がさいわいなのでしょう。（中略）わたしが自分の長寿をありがたいと思い、うれしいと感じている理由は、だんだんゆたかになって、便利になっていく時代を味わうことができたからではありません。その最大の理由は＜あのときは失敗だったなあ＞と思うことをもう一度やり直して、わたしの人生のあちこちにできたやぶれめをつくろって強くしたり、あるいは新しいことに次々とチャレンジして、私の人生にさらにみがきをかける時間をたっぷりもらえたからです。（中略）わたしがイメージする寿命とは、手持ち時間をけずっていくというとはまるで反対に、寿命というからっぽのうつわの中に、せいいっぱい生きた一瞬一瞬をつめこんでいくイメージです。ぼんやりして時間を過ごそうが、何かに没頭して過ごそうが、時間をどうつかうかは、一人ひとりの自由にゆだねられています。その時間の質、つまり、中身を最終的に決めているのは、きみ自身だということです。時間にいのちをふきこめば、その時間が生きてきます。わたしは、この世に生まれたからには、あたえられた時間のなかにわたしのいのちをできるだけ注ぎこみたいと思っています。」また、「ほかの人のために、きみはどれだけの時間をつかっていますか。なぜなら、ほかの人のために時間をつかえたとき、時間はいちばん生きてくるからです。時間のつかいばえがあったといえるからです。ほかの人のために時間をつかうというのはかんたんなことのようにですが、じつは、これがなかなかたいへんなことなのです。しっかりと意識して、しかも、そうするための努力をしなければできません。」

日野原さんは時間を「空っぽの入れ物」と言っています。これから始まる2学期という時間の入れ物に、子どもと職員と力を合わせて、「いのち」をふきこんでいきたいと考えています。 <文責 伊野 昌子>

9月の行事予定

- 1日（金）不審者対応避難訓練
- 7日（木）第3回クラブ活動
6年生小小交流会（大和川小）
- 8日（金）句会・劇団四季による
「美しい日本語を話す教室」
- 14日（木）全校遠足 森林公園
- 20日（水）市小学生親善陸上大会 6年生参加
- 25日（月）自由参観日 2年生親子活動
- 27日（水）児童集会 第4回クラブ活動
- 28日（木）～29日（金）まで
6年生 中1 チャンス宿泊体験学習